



# 碧南ロータリークラブ週報

第2434回例会 平成20年11月19日(水)

- 会長 平岩統一郎 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 木村 徳雄 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)  
E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 長田和徳・岡本明弘・角谷 修・黒田泰弘



**Make  
Dreams  
Real**

## ● 齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

## ● 本日のお客様

西三河分区分区大会実行委員会 委員長 加納 隆氏 (西尾KIRARA RC)  
委員 下谷七郎氏 (西尾KIRARA RC)

## 西三河分区分区大会のPR

本年度、西三河分区分区大会は、私ども西尾KIRARA RCがホストを務めさせて頂きます。開催は2009年3月21日(土曜日)、知立のリリオ・コンサートホールと知立セントピアホテルにて開催いたします。内容は「持続可能な前進」をテーマに記念講演として、東京大学名誉教授の月尾嘉男(つきおよしお)氏による「地球環境問題に挑戦する日本の技術と文化」を開催いたします。碧南RC皆様の多くのご参加をお願いいたします。



## 会 長 挨拶

先週の15日(土曜日)、16日(日曜日)にRI地区大会が名古屋のウェスティンナゴヤキャッスルにて開催されました。当クラブからは26名が出席してまいりました。当日は当クラブが50周年ということで、地区、ガバナーから50周年のクラブに対する感謝状の贈呈があり、当クラブの他4クラブの代表として感謝状を受け取りました。



地区大会は毎年ございますが、今年は初日の講演を佐藤千壽さんが講師とRI会長代理として来られる予定でしたが、ところが10月末に海外でご逝去されて秋田県本荘RCの作左部貢さんが代理でお見えになりました。

佐藤千壽さんの話を楽しみに、皆様が来場されていましたが、佐藤さんは亡くなる余丁があったのか、その弟子にあたる松戸RCの土屋亮平さんに当日の原稿を渡されていたということがありました。当日、その原稿を1時間15分位を土屋亮平さんが代読されました。翌日は、小泉純一郎元総理を講師としてお迎えしまして、1時間少々「日本の針路」について講演されました。次

年度は豊橋RCが豊橋の体育館、ホテルで開催される予定になっております。

昨日あたりから急に寒くなってまいりましたが、先々週はアメリカのエドモンズ市にいったまいました。先週は、アメリカ、カナダの自然、「紅葉」についてお話しましたが、昨日、京都に行く機会があり京都の紅葉を見る機会がありました、急に寒くなってきましたので温度差で紅葉が進み、場所を競うように色づいていました。外国人観光客も沢山来ており、外国人も日本の独特の美に関して感動し眺めていました。

今は、世界の情勢の政治、経済情報がリアルタイムにインターネットを通じて知ることができます。日本独特の感性で自然とか文化を詫び寂び、情緒とかをもって考えていかなければと考えました。

## 幹事報告

- ・地区大会の多くの参加ありがとうございました。
- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・分区大会に関しては、後日、出欠席を取らせて頂きますので、会員皆様の参加をお願いいたします。



長田豊治幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数79名(内出席免除者15名の内出席者11名)出席者59名	
出席対象者 59/79名	出席率 78.67%
欠席者20名(病欠者0名)	前々回修正出席率 93.42%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

### 〈ニコボックス委員会〉

西三河分区大会実行委員長 加納 隆様、同実行委員 下谷七郎様よりたくさん頂きました。

縦山 善久君 地区大会では会長、幹事に大変お世話になりました。

杉浦 勝典君 少し好い事がありました。良い事が続きますように。

平岩統一郎君 } 土・日に開催された地区大会には多くの皆様にご参加頂き有難うございました。  
長田 豊治君 } いろいろなイベントがあり、予定時刻を大幅に遅れましたことを、お詫び申し上げます。

木村 徳雄君 去る11月13日、南愛知カントリークラブで碧南JCじゃがいもクラブに参加しましてアウト39イン40、79で何年かぶりに優勝させて頂きました。今年のベストスコアでした。ありがとうございました。

森田 雅也君 先日の地区大会ではお世話になりました。特に途中下車は助かりました。

大塚 智君 本日の卓話を担当させて頂きます。よろしく申し上げます。緊張しています。

大澤 明敬君 本日の卓話、よろしく申し上げます。

### 〈国際奉仕委員会〉

第100回国際大会のご案内です。2009年6月21日から24日にイギリスのバーミンガムにて開催されます。

### 〈親睦活動委員会〉

年忘れ家族会のご案内、平成20年12月20日(土)17時00分より、衣浦グランドホテルにて恒例の家族会を開催いたします。本日が、出欠の締め切りですのでよろしくお願いいたします。

### 〈ゴルフ部会〉

12月度のゴルフ大会のスタート表をボックスに入れてあります。なお、当日は、碧南JCのじゃがいもクラブも開催されますので、参加の方はカード参加でお願いいたします。

大塚 智君

ご無礼いたします。大塚でございます。本日は卓話ということで、お時間を拝借いたします。元来、人前で話すことは、すこぶる下手な方で、皆様のお耳を汚すこととなりますが、15分間の辛抱の程、よろしくお願いいたします。



私は昭和32年の春、三重県鈴鹿市で、百姓の一人息子として生まれました。生まれ育ったところは、ちょうど鈴鹿山脈のふもとで、ご存知の方も見えると思いますが、椿神社という神社がありまして、その隣です。ゴルフ場でいえば、三鈴カントリーの近くになります。そこははっきり言って、かなりの田舎です。小学校に入学したときの同級生の人数がたった19人、男子8人だったため、ソフトボールができなかった覚えがあります。村には信号がなく、かなり大きくなるまで交差点の渡り方がわかりませんでした。遊びはもっぱら田んぼや山の中を走り回ったり、木登りをしたりするというのが定番でした。そのような環境の中、小学校、中学校へと進み、鈴鹿市内の高校に進学いたしました。

先ほども申し上げましたが、私は百姓の一人息子で跡取りなのですが、大変な親不孝をいたしまして、高校卒業後、名古屋へ出て、大学の工学部機械科へ進みました。息子は跡を継ぐのが当然という田舎の常識の中、私のわがままに対する両親の理解はまさに先進的で、今も感謝しています。

名古屋に出て、こんな大都會があることを初めて知りました。また、これまで標準語だと信じて使い続けていた伊勢弁が、名古屋では通じないことに衝撃を受け、カルチャーショックの中で大学生活が始まりました。家が貧乏でしたので、大学の授業料を免除してもらい、アルバイトと奨学金を頼りに、生まれながらに身に付けた質素に耐えられる能力を活かして、大学院を含めた6年間を過ごしました。

卒業後、縁ありまして中部電力に入社しました。元々は車などのメカに強い興味がありましたので、工学部の機械科に進んだのですが、年がたつにつれて、地元志向といえますか、地域社会に密着した仕事に興味が出てきたというのが、しいて言えば入社理由です。中部電力は当然のことながら、商品が電気ですので、技術系の社員は電気科を出た者が圧倒的に多数を占めます。私のような機械を出たものは少数派でして、電気を作る前段階の職場である発電所勤務というところが必然的に与えられます。私の場合も、その例に漏れず、火力発電所勤務が命ぜられました。私の最初の職場は知多火力発電所でした。その後、本店の火力部火力建設課というところに異動し、新しく建設する発電設備の基本設計を担当するようになりました。

この碧南との係わりはそのころに遡ります。当時ここ碧南の地に石炭火力発電所を建設するという計画が具体化し、基本設計を開始することになりました。しかしながら、当時、石炭を燃料とする発電所は中部電力社内にはなく、石炭を取り扱う設備の知見も全くありませんでしたので、大変な苦勞と労力を費やした覚えがあります。そうこうしている内に、現場での建設工事が始まりまして、設計した者が現場で責任を取れということで、平成元年に碧南の建設事務所に転勤しました。現在の発電所の敷地は整備が進んでいますが、当時は、そこが埋立地であったこともあり、今では考えられないような泥の海でした。こんなところに発電所を立てられるのかと思ひながら、泥まみれになって現場を這いずり回る毎日を過ごしました。そのころは、ちょうどバブル景気最盛期のころで、電力需要が急激に伸びていましたので、それに間に合わせるため、一日でも一時間でも早く発電所を完成させて、電気を出さなければならないということが会社の至上命令でした。ところが現場では懸案百出で、なかなか工程が前へ進みません。朝早くから夜遅くま

で、一年365日、本当によく仕事をしました。そのころ長女が生まれていますが、彼女に私が父親だという認識はほとんどありませんでした。

そのようにして、泥と汗と涙にまみれながら、もがくうちに、神様も助けてくれたのでしょう、1号機が平成3年10月に、2号機が平成4年6月に、3号機が平成5年4月に運転を開始することができました。結果的に当初の予定から前倒して完成することもできました。地元の皆様のご理解と、関係者のご努力に感謝です。苦しいときに誰かが言いました。「心配するな！何とかなる！」この言葉が印象的に残っています。

この時点で、私は火力建設屋の世界から足を洗うこととなります。入社から10年余りが経っていました。上司の配慮で、本店の火力部火力運営課というところへ転勤となりました。発電所の運転や修繕を管理する部署です。おかげで、オペレーションアンドメンテナンスの感覚について勉強させていただきました。その後、再び碧南火力に保修課長として赴任し、またまた本店の元の部署に戻りました。

本店と碧南の往復を繰り返すうちに、入社20年目を迎えることになりました。ここで私の会社人生の大転換が待っていました。関係会社のエル・エヌ・ジー中部へ出向を突然命じられたのです。エル・エヌ・ジー中部は中部電力が火力発電所用の燃料として輸入している液化天然ガス、略してLNGといますが、これをタンクローリー車に積んで一般の工場などのお客さまへ直接お届けして、買っていただくという商売をやっている会社です。中電のインフラを利用した新規事業として営業を開始してから3年が経っていましたが、厳しい経営状態でした。このような段階で、それまで何のかかわりもなかった私を、経営者としての立場で出向させるのは、あまりにも酷というものです。またしても寝る間を惜しむ苦悩が続いたことは想像に難くありません。そこで4年間もがき苦しみました。どこかで神様が見ていてくれたのでしょうか、何とか危機を乗り越えて、今では経営も安定しております。「心配するな！何とかなる！」ここでも、この言葉が、じわっと胸に染み込みました。

エル・エヌ・ジー中部に出向したまま会社生活もゴールに向かうかも、と思っていたのですが、昨年7月に出向が解除されまして、中電本体に戻され、発電所長として、この碧南火力に三度来ることができました。そして、皆さんにかわいがっていただきながら今に至っております。

碧南は私が会社に入って最も深くかかわってきたところです。この地でロータリアンとして皆様のお仲間に加えていただき、さらに記念すべき50周年の行事にも参加させていただきまして、大変な名誉と喜びを感じています。深く感謝申し上げます。若輩者で、なかなか役にはたちませんが、今後ともよろしくご指導いただきますよう、心からお願い申し上げます、終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

## 大澤明敬君

皆様こんにちは。日本金属工業の大澤です。先の日曜日には地区大会に参加させていただき、夜の懇親会も含めなにかとお世話になり誠にありがとうございました。また、帰りのバスの中では思いもかけないハプニングにも遭遇し、忘れることの出来ない一日となりました。本当にありがとうございました。

それでは、月並みではありますが、私の履歴書と題して話をさせていただきます。

私は昭和34年北海道旭川市で生まれ、高校まで在住しておりました。旭川と言えば、最近、旭山動物園が大人気となり有名になってきましたが、もともとは大変気候の厳しい場所であることは皆様もご存知のことと思います。旭川は大雪山のふもとにある盆地にあるものですから、夏は



暑いときは35度となり、厳冬期には氷点下30度を越し、年間気温差は実に70度近いという日本ではまれな場所です。朝6時の気温が7時前のNHK気象情報で発表されるのですが、小学校ではその気温が氷点下25度を超えると1時間遅れ、30度を超えると休校になるということが自動的に決定されていました。しかし、小学生の頃は元気なもので、休校が決まると「やったー」と言って友達の家に行き外で遊んでいたと記憶しております。

中学校時代は、あまり記憶にないのですが、学校から家が非常に近かった為、かえって遅刻ばかりしていていつも校門で先生に怒られていたと思います。高校に入ってから、バトミントン部に入部しましたが、1年生の最初はとにかくランニングと素振りばかりで大変つらい思いをしました。特に、月に一度の旭山動物園までの約30キロの往復ランニングはイヤでイヤでたまりませんでした。

大学は北海道大学経済学部に入りましたが、大学時代が学生生活の中で一番思い出深いものとなり、また、生涯の友人も得ることが出来ました。クラブ活動はワンダーフォーゲル部という山登りを中心とした、今風に言えばアウトドアサークルに入っていました。大学の授業はほとんど覚えていないのですが、クラブでの活動は今でも鮮明に覚えております。夏は、沢登り、ボートやいかだを使った川下り、離島探検、冬は雪山登山や山スキーなど活動地域は北海道が中心となりますが、時には中央アルプスや沖縄・西表島にも遠征しました。私は残念ながら参加できませんでしたが、私が現役時代にはクラブとして初めてヒマラヤの未踏峰登頂も成功させました。

また、先ほどもお話しましたとおり学業には全く力を入れていなかったものですから、もの見事に留年、つまり落第をしました。そのときは、さすがに親も旭川から札幌にやってきて、仕送りをストップすると通達されました。また、クラブも休部すると約束させられました。実際は、親には黙ってクラブは続けておりましたが・・・仕送りをストップされたため、その留年中の一年間はアルバイトばかりをやっておりました。このときのアルバイトはありとあらゆるものを行いました。家庭教師、居酒屋、パチンコ景品交換所の景品運び、テレビ局の山岳取材の荷揚げ、大雪山での高山植物監視員、研究所での試験管洗い、さくらんぼの刈り取り、札幌大通り公園でのとうもろこし販売等いろんなことをやりました。

特に記憶に残っているアルバイトとしてはゴルフトーナメントで選手と一緒に回ってその選手たちのスコアボードを掲げて歩くと言うものです。そのトーナメントは今でもワッツで行なわれている全日空オープンでして、その時に付いて回ったのが、ジャンボ尾崎選手と一人は忘れましたがもう一人は杉本選手でした。ゴルフ部の人間から頼まれて、ピンチヒッターでアルバイトを請け負ったのですが、その当時ゴルフのルール・マナーには全くの無知であり、よくこんな人間を雇ったものだと思えるのですが、ある時、グリーンサイドでボーっと立っていると杉本選手が鬼の形相で怒っています。もともと怖い顔ですから、大変ビビりましたが、杉本選手のラインの延長線上に私がボーっと立っていた様です。今、考えると大変失礼な行為なのでしょうが、ゴルフを知らない私にはどうしようもありません。その時、慰めてくれたのが尾崎選手で「今日の杉さんはスコアが悪くてぴりぴりしてるんだ。気にするな。」と優しい言葉をかけて頂きました。当然、その日の尾崎選手は絶好調でした。

この様な大学生活を送り何とか5年間で卒業することが出来まして、昭和58年に今の日本金属工業に入社いたしました。最初に配属されたのは相模原製造所でした。そこで3年間、コンピュータ関係の仕事に携わり、販売システム開発を担当しておりました。その時は、猛烈に忙しくて、帰りはいつも終電、時には会社に泊まることも度々ありました。この様なこともあって、25歳の時に十二指腸潰瘍になって、血を吐いて倒れてしまいました。ストレスに加え、お酒・タバコの影響もあったのですが、3ヶ月間の手術・入院となってしまいました。今でなら、過重労働で会社を訴えても良かったのかもしれませんが。

その後、東京新宿にあります本社勤務となりました。本社では、採用担当となり、各大学を訪問したり、会社説明会を開催し、学生と接触しておりましたので、しばし学生時代に戻ったような気分でした。採用を担当してからまもなく平成バブルに突入したものですから、完全に学生の売り手市場で採用するのは大変厳しいものでした。ただ上司からは、営業は会社で作る商品売るのだけれど、我々人事部門は会社そのものを学生や就職担当教授に売り込むのだから、会社全体をよく知り、その魅力を十分に相手に伝えなくてはならないと教えられました。その当時、採用した社員からは大澤さんに騙されたと言う口の悪い後輩もおりましたが、私としてはこの採用してきた後輩たちに後悔をさせてはいけないと言う思いで、今日までこの会社を盛り立てていこうと頑張ってきたのだと思います。もし、採用を担当していなければ、途中で挫折してこの会社をやめていたかもしれません。その意味でも、採用を担当したことは自分にとりまして、本当に有意義なものとなりました。

採用を5年間ほど担当した後、労政担当となり、人事制度の設計や労働組合との交渉が主な仕事でした。次は、全く別の仕事で秘書の仕事を担当しました。この仕事は全然自信がなかったのですが、まわりの女性秘書が優秀だったので、なんとか大過なくすごすことが出来ました。会社も、やはり向かないと思ったのでしょうか、秘書は2年余りでクビになり、また人事の仕事に戻ってまいりました。

この時は、当社にとっても最悪の時期でして、3年連続の赤字であり、経常損益も当社として史上最悪78億円の赤字となった時代でありました。当時は、新日鉄を始め他の鉄鋼メーカーも軒並み赤字に陥り、一般に「鉄冷え」と呼ばれた時代でもありました。このため、当社におきましても猛烈なリストラを実行しました。当時1,500名ほどいた従業員を3年間で約半分の800名まで削減しました。人事部門に最初に来たときは、採用を担当していたのですが、今度は一転して退職勧奨をせざるを得ない立場となってしまいました。この時の経験は、非常につらいものでした。この時、会社存続の為とは言え、心ならずも会社を去らざるを得なかった先輩たちの犠牲の上に、今日の当社があることを社員は忘れてはいけないと思っております。

大幅なリストラの後、社会全体の景気も回復し、会社の業績も徐々に回復しつつありました。そのころ、それまでメイン工場であった相模原から衣浦へ徐々に生産をシフトしてまいりました。最後まで相模原に残ったのは、精密圧延品の生産ラインでしたが、これも、平成18年3月に完全に閉鎖し、約200名の従業員が相模原から衣浦に転勤してまいりました。その時に、私も本社から衣浦製造所に家族ともども転勤となってまいりました。今から2年半前のことです。

いざ、実際にこちらで生活を始めてみると、碧南は非常に居心地の良いところでした。現在、碧南駅近くの羽根町に住んでいるのですが、会社までの通勤は歩いて15分、自転車では5分という立地の社宅に住まわせていただいています。本社勤務のときには、自宅から2時間弱の通勤をしていた事から考えますと、通勤はまさに天国のようです。また、子供たちも、碧南を非常に気に入ってくれまして、上の娘は今中学2年生なのですが、愛知の高校に行くといっておりますし、下の小学4年生の息子は、そこにおられる長田幹事のお孫さんの長田龍生君と大の仲良しとなり、年末の家族会も龍生君が来るなら、僕も行くといっておりますので、長田幹事よろしくお願いたします。

また、仕事でのお付き合いの上で、いろいろなところで碧南の地域との関わりができました。衣浦三水会、交通安全協会、臨海防災連絡協議会等の役員を担当させていただき、その際に鈴木並生さんや杉浦健次さんとお近づきになることが出来ました。会社からこのような役割を与えてもらったおかげで、この様に多くの方とお知り合いになることが出来ました。さらにはロータリークラブにも加入させていただき、更に多くの方々とお知り合いになれたことは、本当に自分にとって大きな財産になったと感謝しているところであります。

この様に、碧南では経験の浅い私ではありますが、今後ともなにとぞご指導いただくようお願いいたしまして、私のつたないスピーチとさせていただきます。ありがとうございました。

次回例会案内 平成20年12月3日（水）  
年次総会 次年度理事役員選挙